

Lcc 研究会の紹介

Lcc (Life cycle costing) 研究会は日本信頼性学会の第 1 種研究会として 2003 年に設立され、2016 年度末までに 132 回の例会を重ねてきました。この間、日本信頼性学会の春季・秋季信頼性シンポジウムでの研究発表、2 冊の書籍の刊行、JIS C5750-3-3 の策定支援、上場企業を対象としたアンケート調査などを実施してまいりました。

Life cycle costing とは、IEC 60300-3-3 によれば、「製品の取得から所有、廃却に至るまでの一連のライフサイクルで発生するトータルのコストを評価するための経済的分析のプロセスである」と定義されています。製品の取得コストの大小だけではなく、所有や廃却段階で発生するコストを見渡して意思決定を下すことによって、トータルのコストが小さくなるというのが Lcc の基本的な考え方です。取得コストよりも所有や廃却段階で発生するコストの方が大きい場合により Lcc の重要性が増してくることから、近年では地方自治体が所有する公共建築物やインフラ資産の管理において Lcc が非常に注目されています。

Lcc の研究は、信頼性工学をはじめとして、建築、会計学などの様々な分野の知識が必要とされ、学際的研究が不可欠です。Lcc 研究会では Lcc に対する興味・関心があるという共通項を持ちつつも、専門分野やバックグラウンドが異なるメンバー 10 人前後で活動を行っています。2017 年度より新しい研究テーマとして、Lcc の研究を進めるうえで有用と考えられる IEC 60300-3-12 (Dependability management - Part 3-12: Application guide - Integrated logistic support) の検討を始めます。私たちと一緒に Lcc の研究を進めてくださる仲間を募集しています。Lcc に少しでも関心がある方は、ぜひ研究会の会場にお越しください。ご参加をお待ちしております。

2017 年 4 月

Lcc 研究会主査 中島洋行

【研究会主査紹介】

明星大学経営学部准教授、日本信頼性学会員。専門分野は会計学で、特に Life cycle costing に関する研究を中心に行っている。Lcc 研究会では創成期からのメンバーとして活動し、2011 年より幹事、2017 年 4 月より三代目の主査となる。